

人の往来でにぎわうまち・すみだ

すみだ
墨田区長(東京都)

やまもと
山本

とおる
亨



はじめに

東京23区の一つである墨田区は、東京区部の東側に位置しており、隅田川、荒川、旧中川など周囲を川に囲まれている。昭和22年に北部区域の向島区と南部区域の本所区が合併して墨田区が誕生したが、「墨田」の名は、隅田川堤の通称「墨堤」の呼び名の「墨」と、隅田川の名の「田」の2字から名付けられたものである。

都営地下鉄、東武鉄道、京成線など複数路線が乗り入れているほか、路線バスも充実しており、さらには羽田空港および成田空港からのアクセスも良いことから、交通便性の高い地域として評価されている。

この地域が本格的に発展してい



本所松坂町公園(墨田区提供)

くのは、江戸時代、明暦3(1657)年の「明暦の大火」がきっかけであった。江戸はほぼ全滅、10万人余りの命が奪われたこの出来事を機に、幕府は防火対策中心の都市復興に着手するが、この際、武家屋敷などの移転先に選ばれたのが、

現在の墨田区南部すなわち本所であり、武家屋敷を主とする市街へと発展していった。元禄15(1702)年、赤穂浪士が主君のあだを討った事件は「忠臣蔵」として広く知られているが、その舞台となった吉良邸跡地の一部は、現在本所松坂町公園として維持管理されている。

一方、北部の向島地域は農村地帯のままであったが、風光明媚なこの地は、寺社仏閣を巡ったり、庭園で草花をめでたり、団子や桜餅などの菓子を舌鼓を打ったりと、さまざまな楽しみ方のできる、全国的にも有名な一大行楽地であった。

近代日本を形成した明治時代、この地も新しい首都東京の一角として、新たな役割を果たすようになる。当時のこの地の生産品とい

えば、南部では瓦・髪結い具・ろうそくなどの日用品、北部では農作物であり、それが河川に囲まれた好適な立地条件や労働事情で、次第に工業地帯化していく。特に紡績・精密工業・石けん・製靴が盛んで、大正期には輸出向けとして玩具製造・ゴム工業などが起こり発展していった。

関東大震災や東京大空襲の災禍に遭いながらも力強く復興し、産業集積を保持・拡大してきた。戦後は日本の高度経済成長と共に発展し、職住近接の「ものづくりのまち」を形成してきた。

古代東海道・鎌倉街道下道とすみだ

現在、本区といえば、墨堤の桜、隅田川の火花、両国の相撲、さら



偶田川筏渡ノ図(すみだ郷土文化資料館提供)

には東京スカイツリー[®]が思い浮かぶことと思うが、実は古くは平安時代から、この地は和歌の歌枕の地として人々に知られていた。平安時代の歌物語『伊勢物語』にある有名な故事のくだりで「すみだ川：」の名が記され、在原業平が、

「名にしおはばいざ言問はむ都鳥わが思ふ人はありやなしや」と詠んだとされているが、この歌を詠んだのが、古代東海道上の隅田川の渡し(現在の白鬚橋付近)の船の上と伝えられている。

隅田川流域には、平安初期以来、今の台東区浅草や橋場付近と墨田区堤通付近を結び、古代東海道が通過していたと考えられている。中世に入り、この道筋は東京湾・隅田川の水上交通と相まってさらに街道として発展を遂げ、鎌倉街道下道として使用されるようになっていく。水陸交通の要衝であったこの地には、隅田宿と呼ばれる交通集落があり、多くの人や物が行き交う場としてにぎわっていた。

治承4(1180)年、鎌倉へ向かう源頼朝が下総国から武蔵国へ向かう際に、隅田宿に逗留したと『吾妻鏡』には記されている。このことから、付近の隅田川神社など河畔にあった神社には、源頼朝の隅田川渡河にまつわる伝承が残されている。

墨田区のこれから

現在、世界的な課題として「誰

一人取り残さない」社会の実現を目指し、それぞれの立場からSDGsへの対応が求められている。本区は、内閣府が実施する「2021年度SDGs未来都市・自治体SDGsモデル事業」において、SDGsの達成に向けた優れた取り組みを行う都市として「SDGs未来都市」に選定された。また、産業振興を基軸とし、

環境や保健衛生とも連携した事業として「自治体SDGsモデル事業」にも認定されている。古くから交通の要衝として、また「ものづくりのまち」として発展してきた歴史や文化を生かし、すみだらしい共に支え合うまちづくりを進めながら、持続可能なすみだの実現に向け、本区はこれからも歩みを続けていく。

鎌倉街道下道

一口メモ

「吾妻鏡」に記された源頼朝ゆかりの道

鎌倉街道とは、幕府の置かれた鎌倉と地方とを結んだ街道の総称。上道、中道、下道と呼ばれた3本の幹線道があり、そこから多くの支道が分かれていた。下道は、鎌倉を出た後品川を通過して東京湾沿いに北上し、橋場の渡し(隅田川の渡し)を経て松戸、柏を通り常陸方面へ向かうルートで、これとは別に市川方面に行くルートもあった。

「吾妻鏡」では鎌倉往還や鎌倉路と記されており、江戸時代には鎌倉街道と呼ばれてその呼称は現在も各地で使われている。



企画協力…全国街道交流会議「街道交流首長会」